時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第二千五百五十一號
明治廿三年一月卅一日 金曜日
舊暦己丑閏十二月十一日(壬子)
日出午前六時四十四分 日入午後五時零六分
月出午後一時 月入午前二時五十二分
滿潮午前一時零一分 午後一時三十八分
(西暦一千八百九十年)

時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓
○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

東京府下第百十九國立銀行

は從前の資本金四十三萬圓なりしを今回更に五十七萬圓を增して合計一百萬圓と爲し且預金に付き利子の割合をも改めて定期預金は年四分より五分五厘、當座預金は年三分六厘、貯蓄預金は年五分と定め一層世間の關係を廣くして業務を取扱ふと云ふ此一擧に就き我輩が世人の注意を促す所は預金利子の割合に在りと申す其次第を陳べんに凡そ今日の經濟社會に一個人の資格を以て財產を私有し家道盛大にして根本の堅固なるは岩崎氏即ち三菱社の右に出るものなかる可し而して第百十九銀行は恰も三菱社に密着して其株式とて大抵皆岩崎氏の所有にあらざれば三菱一類の手に歸し云はゞ三菱附屬の私立銀行とも名く可き程の關係は普く人の知る所にして今度の資本金增加とても廣く世間に株主を募りたるを聞かず其出處は必ず三菱社なる可し左れば今日銀行と三菱社との間柄は其營業上に於て明に分界を定めて相互に入亂るゝが如き混雜を防ぐのみ理財の正則應さに然る可きみとなれども隱然たる銀行の後楯は則ち三菱社にして銀行は三菱に依て重きを成すものなれば日本國中諸銀行の基礎堅なるものを擧れば我輩は指を百十九銀行に屈して疑はざるものなり且その當局の役員を見るに頭取には豐川良平氏取締役には莊田平五郎氏等慶應義塾出身の人物も少なからずして何れも理財活潑の資に富み然かも事に當りて確實嚴正なるは多年の經歷上より世人の許す所にして爭ふ可らず役員に人物を得て後楯には三菱社の在るあり銀行にして遺憾なきものと云ふ可し唯從前は專ら三菱社との關係に止まりて自から事業の區域を限りたるが故に世に之を知る者も少なかりしと雖も一朝その資本を增して取引を廣くし東京の一方に雄視するに於ては全國に信用の厚くして發展の繁昌す可きは特に辨を俟たず金融社會の人は勿論、貯蓄預金の要ある向きの人々も西より東より來りて取引を開き安心を求むるみとなる可し世上一般に預期して疑はざる所なり斯くまでに信用厚き銀行なれば預金の利子とても他に比して幾分か低かる可き筈なるに今回の廣告を見れば却て然らずして一年以上の定期預金には五分五厘の利子を約したり抑も此銀行にて特に方略を運らして預金を促すの要なきのみならず世人の臆測する所にては近年商況の不景氣、金利の低落に際して三菱社の如きは資金の用法に苦しみ苟も五分以上に用るの道もあらば自から進んで之を取るに躊躇せざる可しと思の外、今は其三菱社を後楯にして恰も社と利害を共にする銀行が廣く世間の金を五分五厘にて預る可しと云ふ奇なるが如くなれども一歩を進めて考ふれば決して奇あらず當局役員の慧眼能く目下の商況を視て今後の勢を察し金利の割合は凡そ此邊を至當なりとして舊て先鞭を着けたるものと斷定せざるを得ず(正金銀行の預金は四分八厘、日本銀行は三分)百十九銀行にして既に斯の如くなるときは凡そ經濟社會に特別の因緣理由あるの外は五分五厘以下の預金に甘んずる者はなかる可し殊に彼の整理公債證書を所有する者の如き牧の數に靳へて心を勵かさゝるを得ず整理の價格今日尚は百圓の位に居て利子は五分に過ぎず之を質て預金にすれば明に五厘の相違あるのみならず公債證書の價は商機の緩急に從て上下するが故に時に或は大に下落して驚くみともある可し假令へ或は之に驚かずして其滿期まで所有と覺悟せんか恰も何十年間の定期を以て五分利を收領するものなれば之を銀行預金の一年間を期するものに比すれば安不安、便不便の相違同日の論に非ず又或は商家などにては平生公債證書を所有し現金入用のときには隨時みれを抵當に利用して便利なりとの胸算もあるよしなれども銀行にて現金を預け置くときは一時の金融は其銀行にて自由なる可し即ち預金を抵當にして融通金を借用するみとなれば必ずしも公債證書を煩はすに及ばず特別の低利を以て金融に差支はなかる可し右に陳る所にして果して理財の旨に戾らざるみとならば今度第百十九銀行の廣告は其事小なるに似て小ならず世間の人氣自から金利上騰の風を催ふしたればみそ天下特色の信用あるにも拘はらず預金の利子を引上げたるみとなれ我輩は之を目して我金融變勢の端緒と認め今後該銀行に向ひ預金の多少と、世上一般に利子の上下と、公債證書の運命とを見て理財世界の安否成敗をトせんと欲する者なり

誤字　昨日の本欄第一段の末行中煙管とあるは煙筒の誤りあり

雜報

○スタンレー氏の履歴　野蠻猖獗の焼點とも稱すべき中央亞非利加の炎天に暴露するみと三年、遂に故ゴルドン將軍の殘將エミン パシヤを救援するの奇功を奏し驍勇の名を世界に轟かすに至れるスタンレー氏の肖像は既に時事新報に掲載して讀者の一覽に供したるが今氏の履歴を聞くに幼名をジョン ローランドと云ひ貧民の一子にして西暦千八百四十年即ち今を距るみと五十一年前、英國ウェールスなるデンバイに生る、三歳より養育院の救助を受け後小學校に入りたれども氏が十五歳の時、大西洋通ひの汽船のボーイとなりて米國に渡りニューオレアンスに徘徊するの際、偶々スタンレーと稱する一商人の爲めに救はれて其養子となり此商人の死するに當り遺產とては一物だに無かりければ遂には北軍フエデラル、アーミー、に加はり漸くにして饑渇を免れ居たる程なりしが茲に始めて幸運に會するに至りしは氏が廿八の年にして英國より亞非利加洲アビシニアに遠征隊を派遣するに當り氏は紐育ヘラルド新聞社の通信員となりて同隊に附屬し後再び米國に還りてより日々筆硯に從事し千八百七十年に至り當時有名なる英國の探求者リヴヰングストーン氏が亞非利加の大河ナイルの水源を究むると稱し中央亞非利加に進入してより既に二箇年の星霜を經過したれども未だその生死だに知る由なかりければ讀者の苦痛、世人の熱心、一方ならず遂に紐育ヘラルド新聞社はスタンレー氏を派出するとはなりぬ、氏は此大任と衆望とを一身に擔ひ亞非利加に上陸してより險を冒し艱難を嘗むると茲に九箇月、タンガニカ湖の東岸ウジヂに於て遂にリヴヰングストーン氏に邂逅し共に手を攜へて同湖の南方を跋涉し茲に兩頭袂を別てり、スタンレー氏の無事英國に歸着するに當りてや皇立地理協會は氏に贈るに金牌を以てするを始めとし名譽は氏の一身に蝟集せり此遠征の狀況は氏の著書ハウ アイ ファウンド リヴヰングストーン(余がリヴヰングストーンを獲見せる景況)に詳なり四年を經て氏はデーリー テレグラフ 紐育ヘラルド兩新聞社の特別通信員となりて三たび亞非利加洲に進行しヴヰクトリア ナイアンザ湖を一週して該湖の面積二萬一千五百英里あるみとを檢出するのみならず猶は進んでタンガニカ湖を一週しそのアルバアト ナイアンザ湖と全く關係なき獨立の一湖たるみとを發見し又ルアルバ河を測量するみと七百八十英里にして此河は未來亞非利加內地通商の最要路たるみとを證する等、氏が大小の發見は實に枚擧するに遑あらず千八百七十九年白耳義國王より下賜せられたる五萬磅(我金貨廿五萬圓)の補助金と萬國亞非利加協會の奬勵とにより氏は又々亞非利加に向て出發せり是より先き氏が芳名は亞非利加洲と密着の關係を生じスタンレーと謂へば亞非利加、亞非利加と問へばスタンレーと答ふる程に至りたれば今回の出發を觀て世人は最早氏が亞弗利加に行けりとは謂はずして皆氏は亞弗利加に歸れりと唱ふるに至れり幾許もなく氏はコンゴー河畔に居住の地を占し此處を以て氏が本陣となし茲に一の貿易場を開き歲月を重ぬるに隨ひ漸く旺盛となりしかば千八百八十四年遂に一大殖民地を設立せりコンゴ フリー ステート即ち是なり此地は實に海岸を距ると六百英里に在り是に於て乎、世人は異口同音に氏を以て此地の太守たらんとを欲せしも氏は固辭して聽かず、ろの大功の成るを觀て輕衣旅裝し飄然として英國に向て去れりろの心中の潔白ある、ろの度量の寬大なる、氏の如きは稀なりと人々賞賛せしと云ふ後蘇丹に孤立せるエミン パシヤ救援の議起るに當りてや衆望忽ち氏に囑し氏は又た亞弗利加に遠征隊を率るとなり千八百八十七年英國を去り亞弗利加に上陸してより幾多の艱難辛苦を嘗め遂に其大任を全ふするに至りしものなりと

○巴西皇后の崩御　過日の紙上に見えし如く昨年十一月革命黨の爲に國外に放逐せられし巴西廢帝と共に國を去りし皇后が葡萄牙のリスボン府に着後間もなくして帝と共に同國
假に崩御したる
るれども巴西黨
の情禁じ難かん
に帝と共に汽船
せんとせし時既
餘り氣絶せし事
は今より四十八

○地主會議　
去る廿七日よん
主の會議を催ふ
問を爲すに先だ
したる演説の大
赴任の當初粗暇
を改良せんと欲
ひ仙臺本石米の
の有様なりしか
のなく夫の取締
りしかど明治十
るもの響出しだ
敢て米穀改良の
俵の粗雜なるを
入と爲す等些末
々規約の條項に
仙臺本石米の聲
一時陸前米の評
高めたるより十
も是等は畢竟
共本幹の改良な
改良とは撰種ん
るに本邦地主の
けるが如く其利
を以て足れりと
するみとなく唯
を愛護して其
有様に放任し置
を開く宮城縣下
據れば一反步
假りに之を改
すれば八萬石
三十二萬圓を得
更に一層の利益
すの任は重立
共稽額を望む

○北陸鐵道の
州金澤市內の
追ふて議案を
即ち會社の定
直ちに今回議
確定する迄假
の撰擧に取掛
して北陸鐵道
身を以て委員
て能く其の任
の定款等をも
り委員長の任
撰擧會を開く
といふ